

特集：国際学会参加報告

7th European Workshop on the Molecular Biology of Cyanobacteria 参加報告

木村 聡（筑波大学 生命環境科学研究科博士後期課程2年）

2008年8月31日から9月4日にかけてチェコ共和国チェスケー・ブデヨヴィツェで開かれた第7回シアノバクテリアの分子生物学欧州ワークショップに参加してきました。シアノバクテリア(ラン藻)、は植物と同じように光合成をする微生物群であり、多様な生物学的特徴を有していることから世界的に広く研究されています。本研究会は三年毎の開催であり、主にヨーロッパのシアノバクテリア研究者が集まりましたが、アメリカやアルゼンチン、オーストラリアからの参加者もいて会名から想像するよりもグローバルな会となりました。

私はシアノバクテリアの環境適応機構に関する研究成果をポスター展示によって発表しました。本会には私と同じテーマで研究を行っている研究者も参加していたため、今後の研究方針を考える上で役立つ情報やアドバイスをやりとりすることが出来ました。ただ、発表全体を通して言うに「英語がとりわけ話せるわけではないけれど、何とか内容は伝えられるだろう」と楽観していたのは大きな間違いでした。言語的な問題で十二分に内容を説明できませんでしたし、まともな議論もできませんでした。多くの時間を費やして出した研究成果の意義や研究分野の面白みを自分が感じているままに伝えられなかったことは非常に残念で悔やまれます。研究発表だけではありません。論文の著者として名

前を知っていた多くの人と顔を合わせることが出来たのですが少し言葉を交わす程度で終わってしまったことがとても残念です。また、ポスター発表と同様に口頭発表においても様々な研究成果が報告されました。ただ語るにとどまらず聞き手に訴えかけるようなプレゼンテーションの仕方、解りやすい資料の作り方など、自分自身のそれと比較して参考になる点が多々ありました。

海外への渡航、食事を含め、いろいろなことが初めての体験だったのですが総じて言えば楽しい時間を過ごす事ができました。ただ、英語が話せればこの何倍も楽しく過ごすことが出来ただろうことが容易に想像できます。今回の海外学会参加は、学術的な知見を深めることが出来たということとはもとより、英語なんて読み書きが出来る程度で構わないと思っていた私に英語を話す事の必要性を痛感させてくれたということから、とても良い経験であったと考えています。この経験を元として、今後自分がより一層成長できるように努力していきたいとおもいます。

Communicated by Iwane Suzuki, Received October 17, 2008.